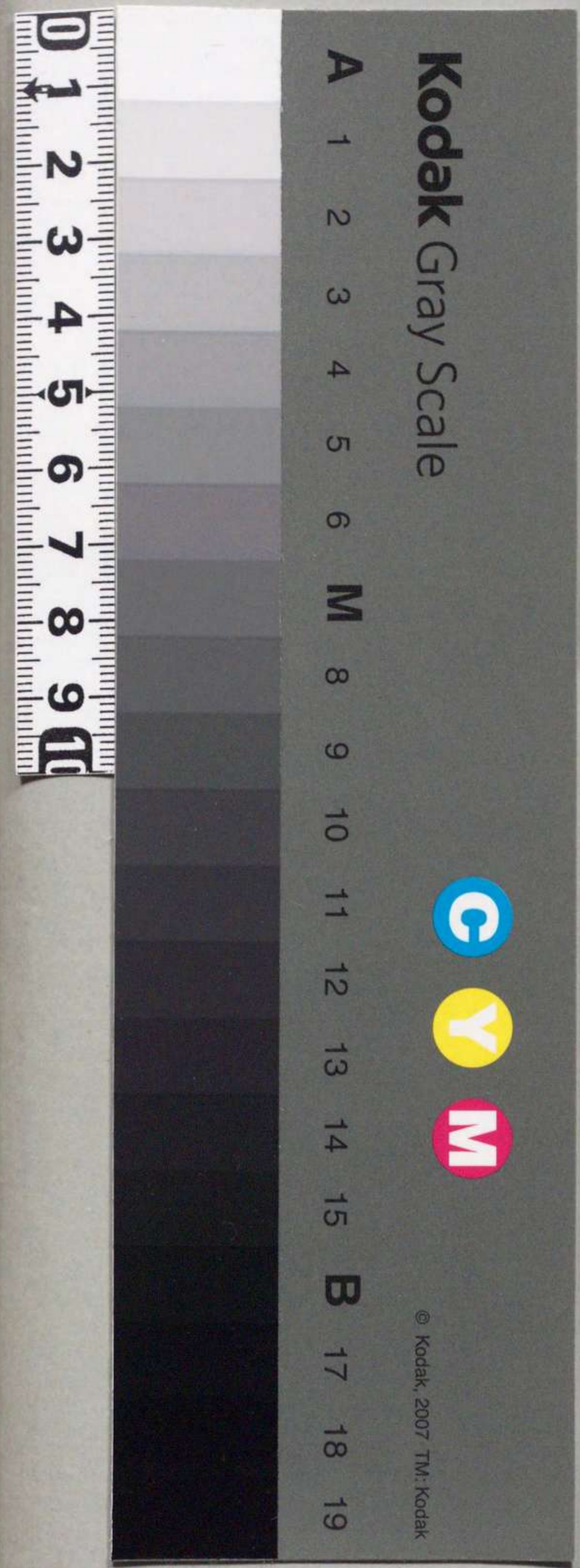


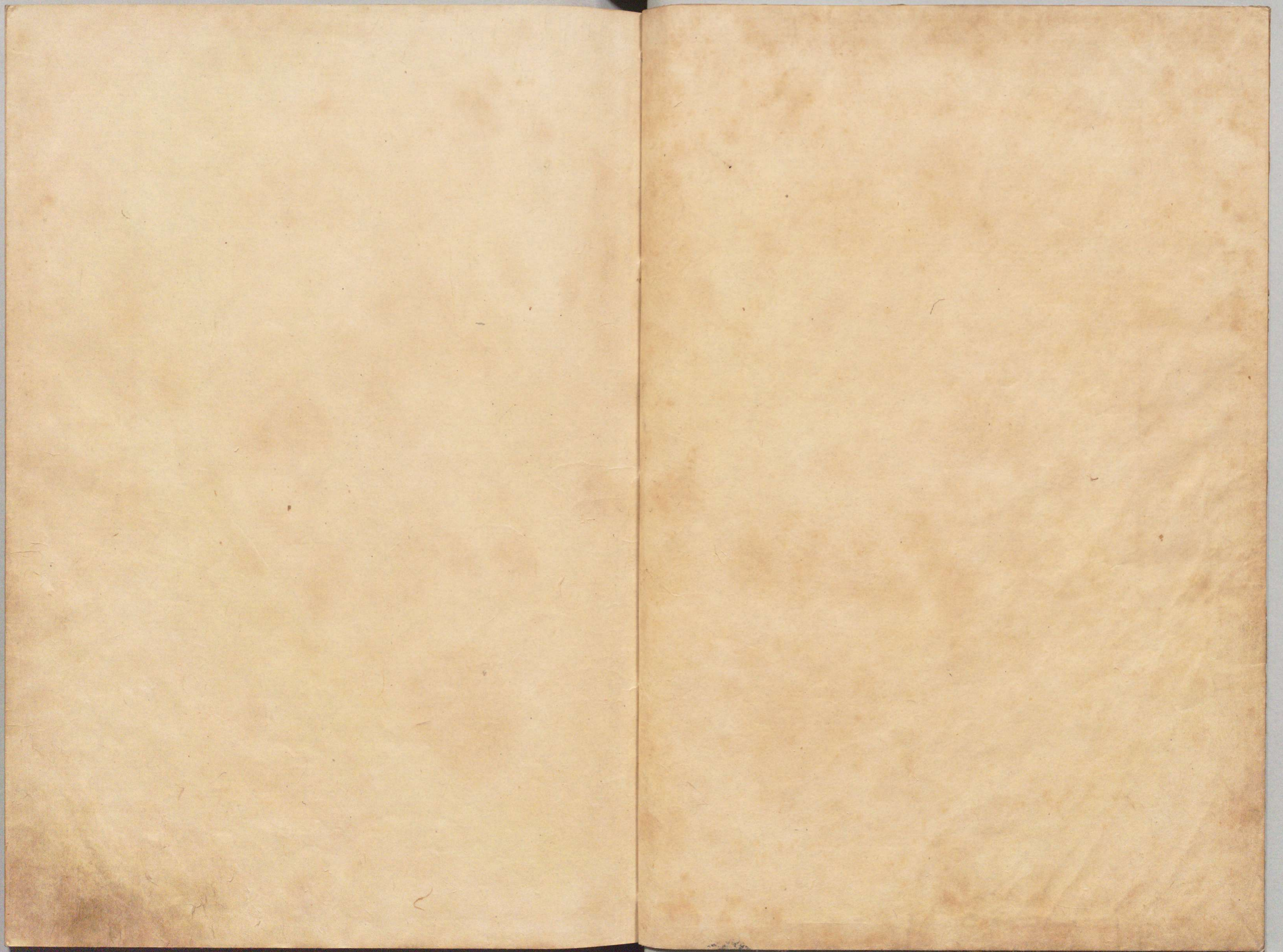
寛永諸家譜

清和源氏丁九冊之内
頼光流

29

内閣文庫		
番號	和	20199
冊數	186(29)
函號	獨	76 1





中川

河丹

多田

寛永諸家系圖傳

清和源氏

丁六

頼光流

中川

中平氏

● 重清

作渡守

鎮守府將軍平良文村松五郎六代秩

淺草文庫

父下野守重繩が三男高山二郎重孝
が後胤なり叔代常列一何と重清
が代一ころりて城列一ゆき抄津國
多田源氏た清の射清村が末系中川
た清の射が妻子こなりうのむとあ小
嫁と

清秀

瀬名清

生國城列

抄列藤木の城ときづき先一作て
近以と領む池田勝政一りまきこふ
元龜三年和同伊賀守同國高柳の
城一りりて威と近國一りゆりあ是
小一りて勝政と威と何とそひ度こ
た一ひ一りあ一勝政道のをりりよ
札とそ一り明日の合戦一和同首と
そんよのふは領地と何とそ一りこ
あり清秀ひうにその札とそり懷中

あく相立日 和回と勝政と相つてふこは
清秀和回が首をころ付り三十一歳
そのち信長一にふ付り 苜耒栲
津守栲列と銀をこよふら清秀
あつふひ苜耒むゆ人の時信長一
属して戦功あり
秀吉毛利退治の時清秀あつて
中国一ありむきく戦功あり
天正十年明智反逆の時清秀秀吉

の先とて一山崎の山とありて
合戦一敵の先と大將三牧とたぬ
伊勢伊勢守と付らりこよふらりて
明智敷少と
日十一年秀吉と一戦のとき清秀
秀吉の始り一にいく志津が嶽の城
とすもり作久る玄蕃と相戦て四十
二軍とてしら死に 法名川巻莊岳

秀政 いせ まさ

坂本清 さかもと せい

後五位下 おごごのかげ

右衛門守 みぎもん ずみ

清秀 せいしゆ

其母と云々の功 そのははと云々のこう

じこことなる情列 じこことなるじやうれつ

うまふらり秀政 うまふらりしゆせい

三千騎 さんぜんき

先陣 せんじん

文禄二年 ぶんろくにねん

討死 うちしに

法名天叟心岳 ほふな てんそうしんがく

秀成 いせ ちやう

小孫清 こまごせい

後五位下 おごごのかげ

修理大夫 しゆりだいふ

秀吉 しゆきち

と朝鮮 とせん

秀政 しゆせい

三木の城 さんきのしやう

文禄四年 ぶんろくよんねん

こあひたてゝひて疵をうりゆり改め
其後豊後の國豊の城となり信小
よりて取久乃玄蕃がむこり
其長五年國が原合戦の時を反の國
小て太田飛騨守と教度お戦ひ勝利
とゆりり飛騨守は石田が黨なり
日十七年八月十日日豊の城よりて死
法名國親宗鑑

女子

池田三た清の耐輝政室
松平茂菟守利隆母

女子

森美作守忠政室

久盛

内膳正 初名、秀祐後久盛に改

寛永十二年十二月晦日没五位下よこゝかひ

叙す山崎守やまざきのもり伊い佐さおほせ山やま七しち

石川いしかわ殿のとの以忠もちのちか總のぶむむここららり

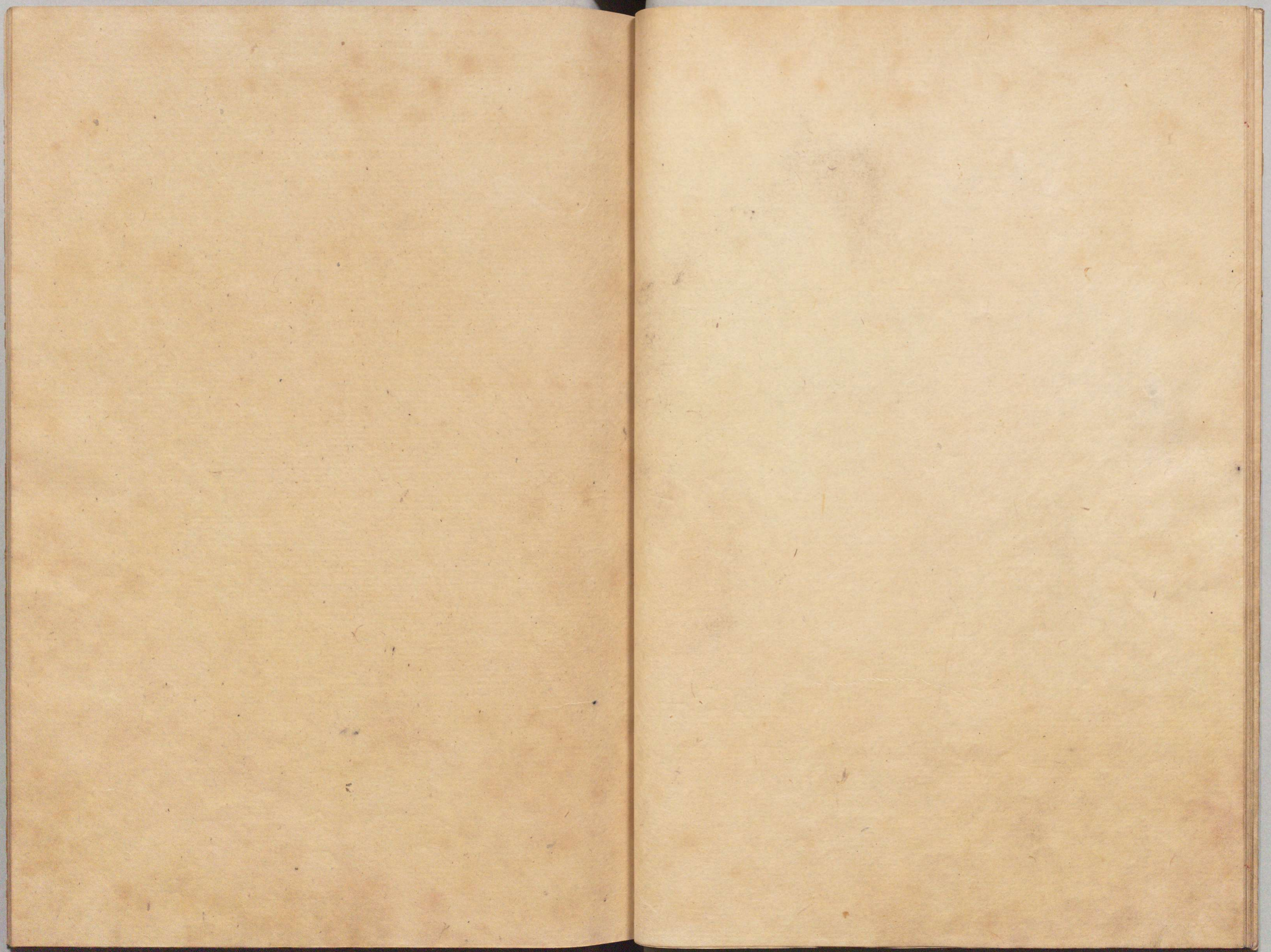
女子にし

水野みづの出羽守でわのもり忠正ちかまさ書あ

果は

清苑せいゑん

家いへ紋のり二ふた柏かしわ



中川 なかがわ

集 あつめ

三九郎

重清 しげきよ

将監 しやうげん 生國尾列 いけおし

大権現 おほごんげん 一ツ久 いつく 久 く 久 く 久 く 久 く

天正十二年長久手合戦のとき供奉
したくまのりい陣のとき領地とくま
たまたまか

日十八年小田原御陣に供奉と

長久手五年関原御陣に供奉と

台徳院殿の侍を大坂五度の御陣とつ

こし

七十五歳ふて病死と

法名寛窓

重良

左平右 生國駿列

長久五年大久保相模守とつて

台徳院殿とあしたくまのりい

日十九年の冬大坂御陣の時松平越
中守継小属し軍役とつとあ羽之年
の夏御陣より内者若狭守継し属と

家の
家紋鳩敵草

中川

忠吉

たけし

源次郎

生國三河

廣忠ひろたけ 弼すけ 行ゆき 之の

法名頼周ほりなまのりしゅう

忠重

たか

市右衛門尉

生國日前

大権現より之奉る

享長十五年六十九歳少く死す

法名法眷

忠臣

与物 生國同前

大権現より之奉る

天正十二年尾列長久子命戦の中死

三十七歳少く死す 法名吟松

忠次

市右衛門尉 生國同前

實は忠臣が子なり忠臣戦死の後

大権現の仰より依く忠守が長子少く死す

うねち

名徳院殿より之奉る

慶長五年高田陣より奉る

同十九年大坂陣より之奉る

將軍家一以之よりてたびく米地の御加
増とたまつて都合二千石と御代
寛永十八年六十五歳とて死す
法名宗現

忠房

市助

生國茂苑

大坂陣河原御中と御代一
て信子翌年再乱の時首級といり
元和七年二十七歳とて死す

法名休齋

忠章

勘之郎

生國同前

元和三年

將軍家より御代

日年永井を前と御代一
小姓組の番とつとむ

日九年御上洛の時三浦忠摩と御代
て侍奉

寛永三年上河の付 綿垣^{ちんがき}を授与^{さづ}せ
し^ぞ 属^ぞす

日十年^{こちんご} 沙小納戸^やの役とつね^やに
食^き禄^{ろく}又百俵^{ひゃく}とたま^まふ

日十一年^{じゅういちねん} 沙上河^{さか}の^の 任奉^{にんぽう}を^を せ^せと^とす

忠宗 ひね

市物 生國^{なまくに}同^{どう}前^{まへ}

寛永七年

お軍家^{おぐんけ} 一^{いち} 湯^ゆ 一^{いち} ち^ち ち^ち 家^け

日十三年^{じゅうさんねん} 小條^{せうじょう} 羽^は ち^ち 經^{つとむ} 小^{せう} 大^{だい} 河^か 妻^{つま}

とつ^{とつ} ち^ち ち^ち

日十七年^{じゅうしちねん} 仲根^{なかつね} 大^{だい} 隅^{ぐも} ち^ち 經^{つとむ} 小^{せう} 属^ぞ す

日十九年^{じゅうくねん} 二十^{にじゅう} 之^の 采^{さい} 小^{せう} 法^{はふ} 名^な 宗^{そう} 國^{くに}

忠明 あき

久^{ひさ} 吉^{よし} 師^し 生^{なま} 國^{くに} 同^{どう} 前^{まへ}

寛永七年

將軍家より賜^{たま}へたる

同九年小澤出羽守經より大御者として

おしむ

同十七年中根大隅守經より属す

同十八年父忠次が遺領の四千七百石と

たす

忠政

三十郎 生國同前

寛永十六年

將軍家よりつとまりて食禄とたす

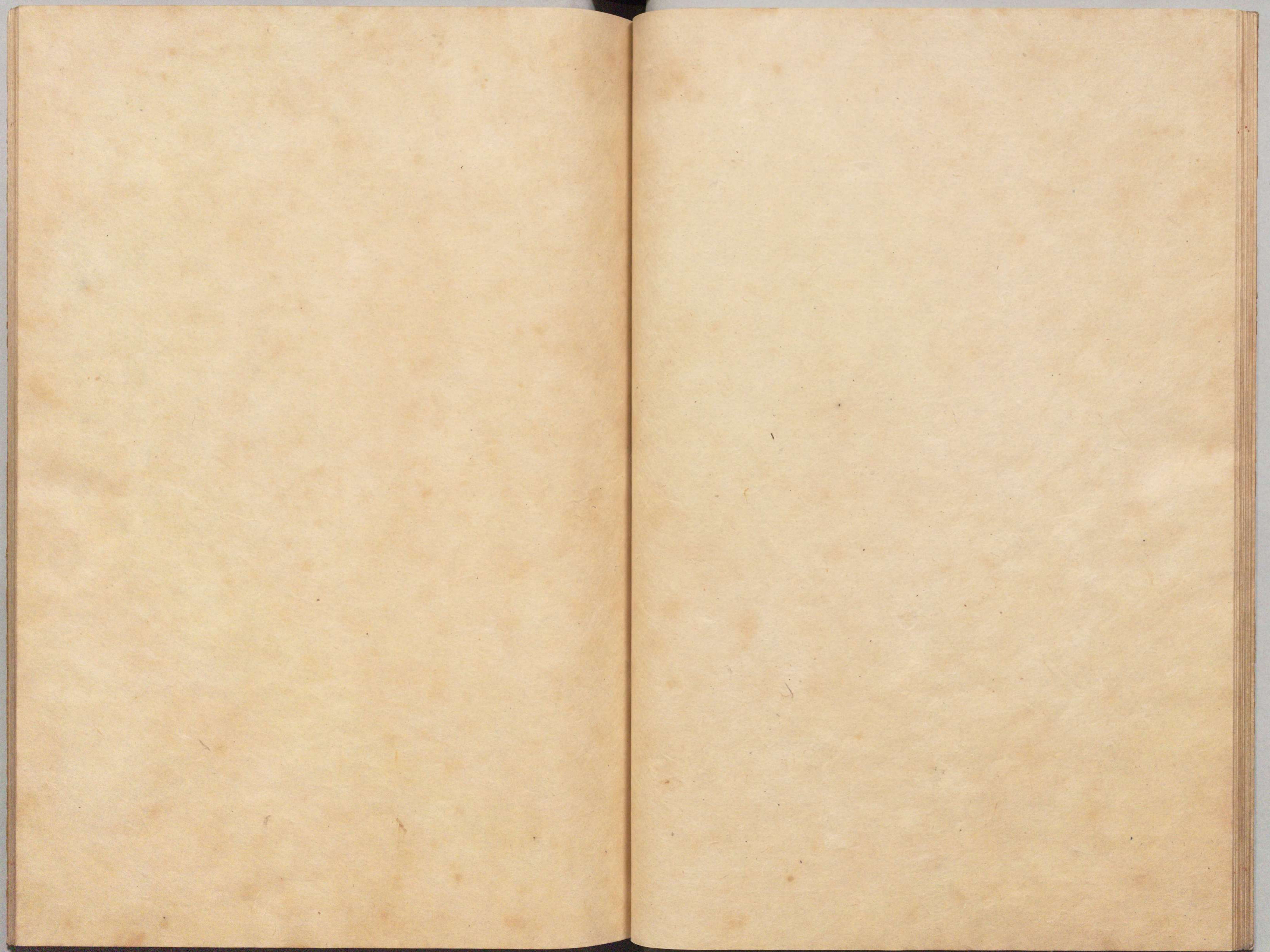
同十七年父忠次が遺領の四千七百石と

同十八年父忠次が領地の内二千石とた

す

同十九年父忠次が領地の内二千石とた

家紋丸内鳩殿尊



中川 なかがわ

● 勝重 かつしげ

雅樂助 みやがせ 生國甲列 なまくにのり

茂田信玄勝頼父子につま

天正十年

東照大権現甲列御入國の時りもこれ
ありたくもつり御朱印と以載を

勝定 かつじやう

汝又為 生國曰前

台徳院殿（此ノ）てまつり御朱印と
給り其後

將軍家（此ノ）てまつり

昌勝 かつむね

汝又為 生國武苑 むくに

實（此ノ）今井九郎（此ノ）昌安（此ノ）子なり昌安也

大権現

台徳院殿

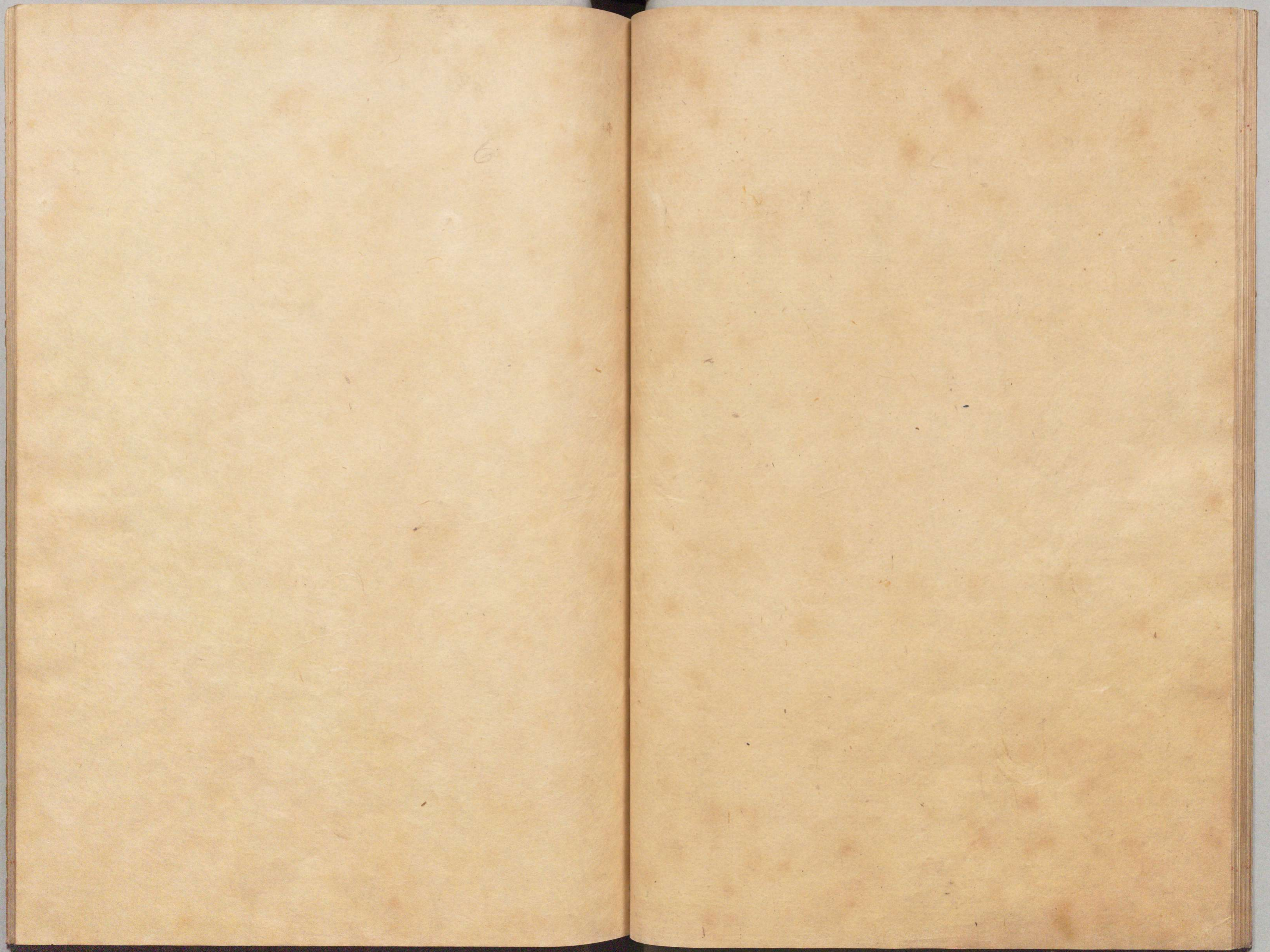
將軍家（此ノ）てまつり

寛永二年昌勝勝定（此ノ）書中（此ノ）なりて

中川（此ノ）と称号（此ノ）也

將軍家（此ノ）てまつり

家紋 （此ノ）
釘貫 （此ノ）



中川 なかつかわ

● 真 ま

熱 あつ 之 の 島 しま

真

傳 つた 之 の 生 なま 國 くに 之 の 列 り

實 まこと 大 おほ 久 ひさ 保 たも 之 の 郎 らう 之 の 婿 むこ 男 をとこ 熱 あつ 之 の 島 しま 之 の 子 こ

ご形り

台徳院殿

將軍家（水奉公仕其後病死）

政次

傳三郎

家紋者丸内大文字

伊丹 いだけ

● 康直 やすちき

大隅守 あぐすのり

生國振列 まなくまのり

五六蒙の附振津國兵乱このたひやらんしまにく後列ごんり

一列いさよりゆ先祖せんその後ごたりまりす康直やすちき

後列ごんり義元よしかげをちらまさく義元よしかげ氏うぢ高たかに

あらわしてたぬの軍功ぐんこうありし事ことと

信玄しんげんのあつふふりしひおつれ船大
將しやうのあつり孫列遠列りく之列表しよあわく
船中せんちゆうの働はたらかな度どあり情頼代りやうだいとなまふと
右代みぎしろの軍忠ぐんちゆうのおもむじき
東照大権現とうしやうだいこんげんとなまふり達しりあつれつと
たくしりふ

房康ふやう

持大史 生國駿列

氏玄うぢげん信玄しんげん勝頼かつらう一つふ甲列けつ一い亂らんのら
天正十八年

大権現甲列だいこんげんけつ一い水みづ入い國くにのきさらふりあつれ
其後

台徳院殿たいとくえん一い水みづ入いとなまふりふ

之信しん

理右湯りゆうとうの 生國相摸しやうこくさうも
台徳院殿

將軍家へ此久しくそしめしる

康重 くわじゆう

赤又右衛門

大権現へ此久

某 なにか

赤又右衛門

大権現駿列以入國の列者社又康重

めいもこれ赤又右衛門も其時よりつゝ
たぐしる

康勝 くわじゆう

たぐし

康勝 くわじゆう

播磨守

初ハ赤又と号す

大権現

台徳院殿へ此を乞勅定を仰付けら

ま日本國中に飛入仕置未を承り

是又十九年同女年大坂台亂の初法軍

勢の扶持方支配也

五月七日大坂台合戦の時城きこえ高名

つうせうつり

台徳院殿御前へ仰かす別

大権現へ此使よ此とさるる如し

大権現此後よ此合戦此利運よなり此感ふ

お仰めさるけうへよく事此を乞情と

ぬきんつるきのよこしよ此お情を領也

元和十年二月

台徳院殿の命より酒井雅宗に仰部

任申守なりびよ康勝

將軍家へ事仕の時後五位下よ叙せし

栗田に國清の此脇指以戴よ其後

御加増とお領して甲府の此城とあり

より同國の仕置未信付よ甲府此城

きんちん
勅書さこのたのら康勝ちんき依渡國の仕番とつけ
たまふたふ
判發ていさつして順承じゆんじやうと号なす

直勝ちかかつ

金十郎 生國なまくに武列 年三十二ふして
病死びやうし

勝經かつきやう

加藤 生國なまくに日記

將軍家一つくそそしるふ

勝長かつちやう

死人しにん

天文十二年五葉あして
白徳院殿とありいたぐまうり十二葉より
つくとそしるふ

勝政 かつまさ

五た湯の

寛永十一年十二月十某よりして

將軍家とありしそまらる

勝重 かつしげ

理た湯の

寛永十一年十二月七某よりして

將軍家とありたそまらる

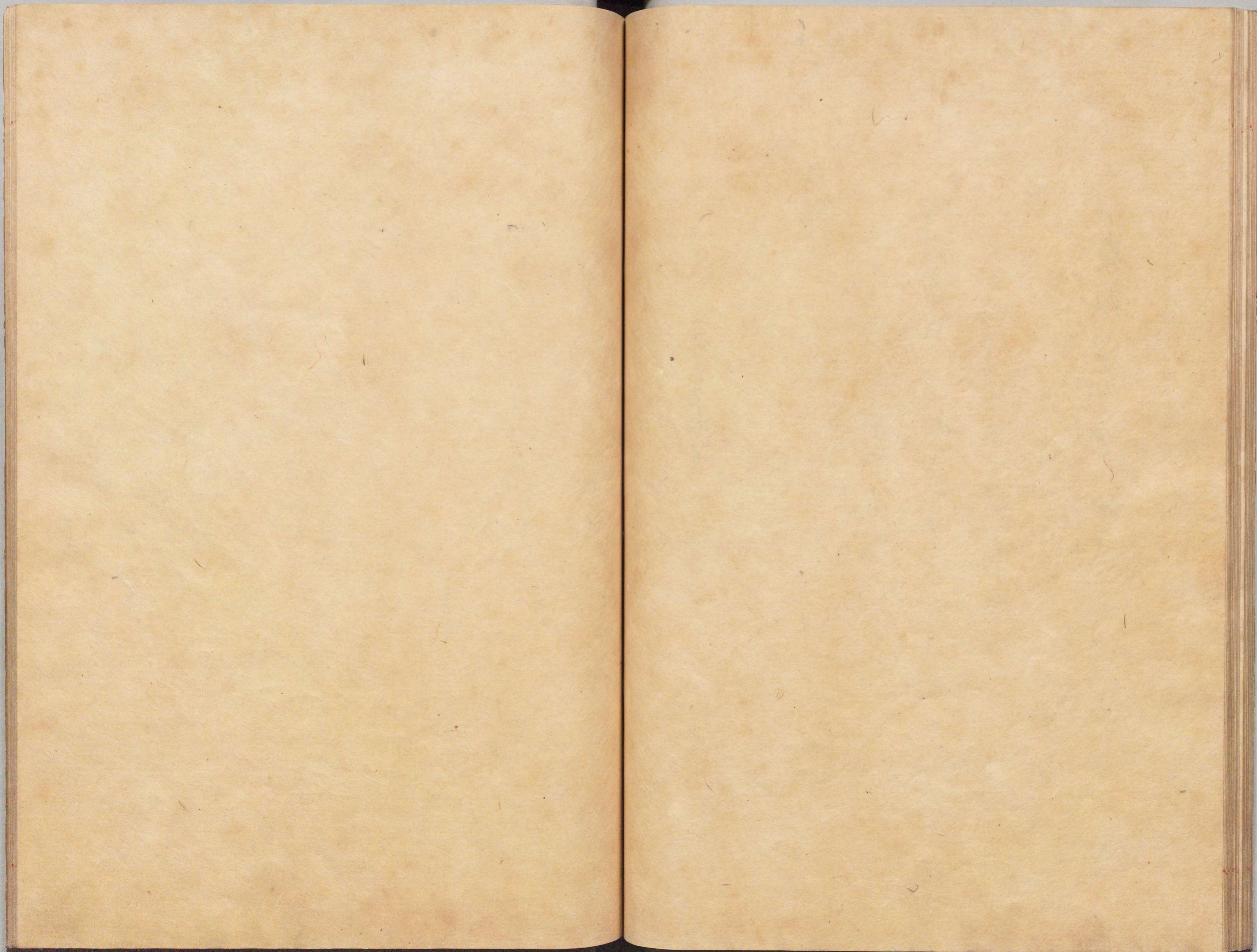
武勝 ぶかつ

内苑助 うちえんすけ

生國山城 なまくにやましろ

將軍家ふつとそまらる水邊とけい

家紋上者丸よ加字 そのらん かりまのまる



伊丹 いだけ

● 宗次 むねつぐ

新左衛門 しんざゑもん

法名常圓 ほうなむねとこ

生國相列 なまくにあひだり

小幡氏 おぼたて 忠子 ただこ

宗重 むねしげ

隼人 はやと 正 ただ

生國同前 なまくにどうぜん

小條安房守小左衛門正
慶長五年病死 法名常森

宗俊

十歳 生國上野

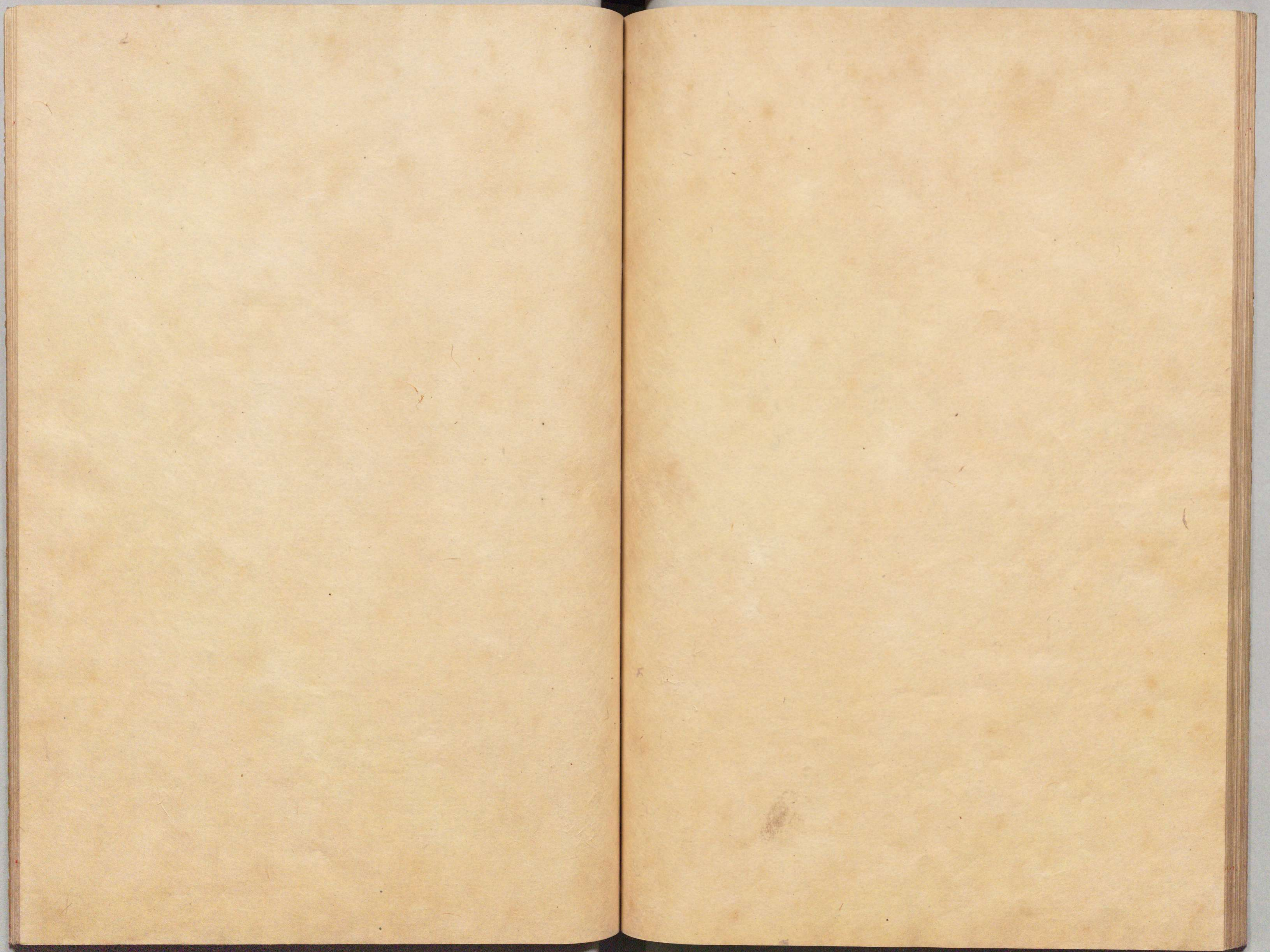
享徳十七年

大権現とありたぐり大坂あ後の御陣

倍年

迎年より殿守の御着と相成とむ

家紋下取



● 正親 まさちか

兵庫 ひょうご

慶長八年 関ヶ原陣より討死 せicho げん せきがはら じんより うちくし

永親 ながちか

国後守 くにのちのり

伊丹 いだん

白徳院殿よつとくそしる

なり
永教

宗名勝 生國あし撰列大坂

白徳院殿よつとくそしる其後

將軍家よつとくそしる

家紋下巻丸門加字

昌澄

多田

三八郎 淡路 生國義濃

弓矢修例のたわ甲列へて武田信虎

信玄父子つと之日公と形り志つ

軍功あり信列座を苑山を城

信玄の感状あり

今十九卯刻於位列塚魔郡一哉
初頭を討捕し糸維不始子細
神妙く至以神回ん被友中は頸殺
多致しく事忠節しく中名は能く
三市舎山坊
天多十七戌年

七月十九日

晴信判

多田三八郎

永祿六年十二月病死 法名宗樊

某

新八郎 八右衛門 生國甲列
信玄へつゝへて日公をあらはる
元龜元年四十二歳しりく病死

正者

三八郎 八右衛門 生國同前
天正十年

大権現甲列^{うしろ}水入國^{みづいりくに}の時^{とき}ありあさる

日十二年^{にちじふにねん}長久手^{ながくて}陣^{じん}あり佐^{すけ}あり

高名^{たかね}あり

慶長十二年五月十八日^{けichoじふにねんごがつじふはちにち}四十二^{よじふに}歳^{とし}に病^{びやう}死^し

正長^{ただなが}

三八郎^{さんぱちらう} 生國^{なまくに}日前^{ひのまへ}

大権現

台徳院殿

將軍家^{しやうぐん}へつゝへしそしめり

正次^{ただつぐ}

八助^{やっすけ} 生國^{なまくに}武列^{ぶりく}

台徳院殿

將軍家^{しやうぐん}へつゝへしそしめり

寛永十四年四月^{かんえいじゆねんしがつ}八^{やち}日^{にち}に死^しす

正重

市右衛門

生國月前

將軍家へ此之しそそしる

正行

右衛門次郎

生國日前

將軍家へ此之しそそしる

寛永十五年十二月又正次り遺跡と

たすか

昌俊

三八郎

生國茂濃

氏田信玄小此之又昌澄におろく軍

功あり志ふしそ信玄へ不足ありゆ

甲列とたら玄弓矢終りしそ関東小

あしむく

永禄十年十二月十七日武列器付り

おろく討死を時り三十五歳 法名昌取

昌經

三八郎 生國甲列

父昌俊因東へおとじく時り昌經幼少の

ゆ伯舅おん右衛門尉養育せしゆ

天正十年小糸氏並甲列とおとあやき

大権現御進發たるも御先主一人救つら

たるも時武川の者もも同く忠

節とほくし小糸の誓この海へ

小浜の小屋と逃落し時り

大権現新府おとへ山王座の時りあは

新府おとへ小おわく高きあり時り昌經

十六歳

日十二年尾列小牧陣は佐守一曰國一

宮城とすゆふ

日十三年古卒と其回おとへけりて

時軍功とすけり書子と駿列身國さ

へそまつり忠義とけりすゆ武川

元と同一く御書となすべし

同十八年小田原陣の時佐々木

同年関東入國の時武列録飛

おのゝ領地となすべし

同十九年九部御陣よ志すべし奉る

慶長五年國原水陣の時

大権現の命とすべし

台徳院殿に於てそつり志田陣の時

供奉とす

大権現の命とすり義直の命よりとす

来地の御加増となすべし

同十年正月廿日病死 年二十九

昌繁

次郎右衛門 生國武列

父昌經死去一昌繁幼雅なりつとす

録飛武川の兵士と同一くありしに

是き旨成瀬隼人正正成 釣命と昌繁

小治ふふり

白徳院殿一りおさし大坂五度の所陣マヤコ

伏奉すくふ

元和九年台命たいめいふり忠長たかちり一此之其後

將軍家とありたくまうりふら比枝たき持方もちかたと

寛永十六年下総大湊おほみなと賀小おのて領りやう

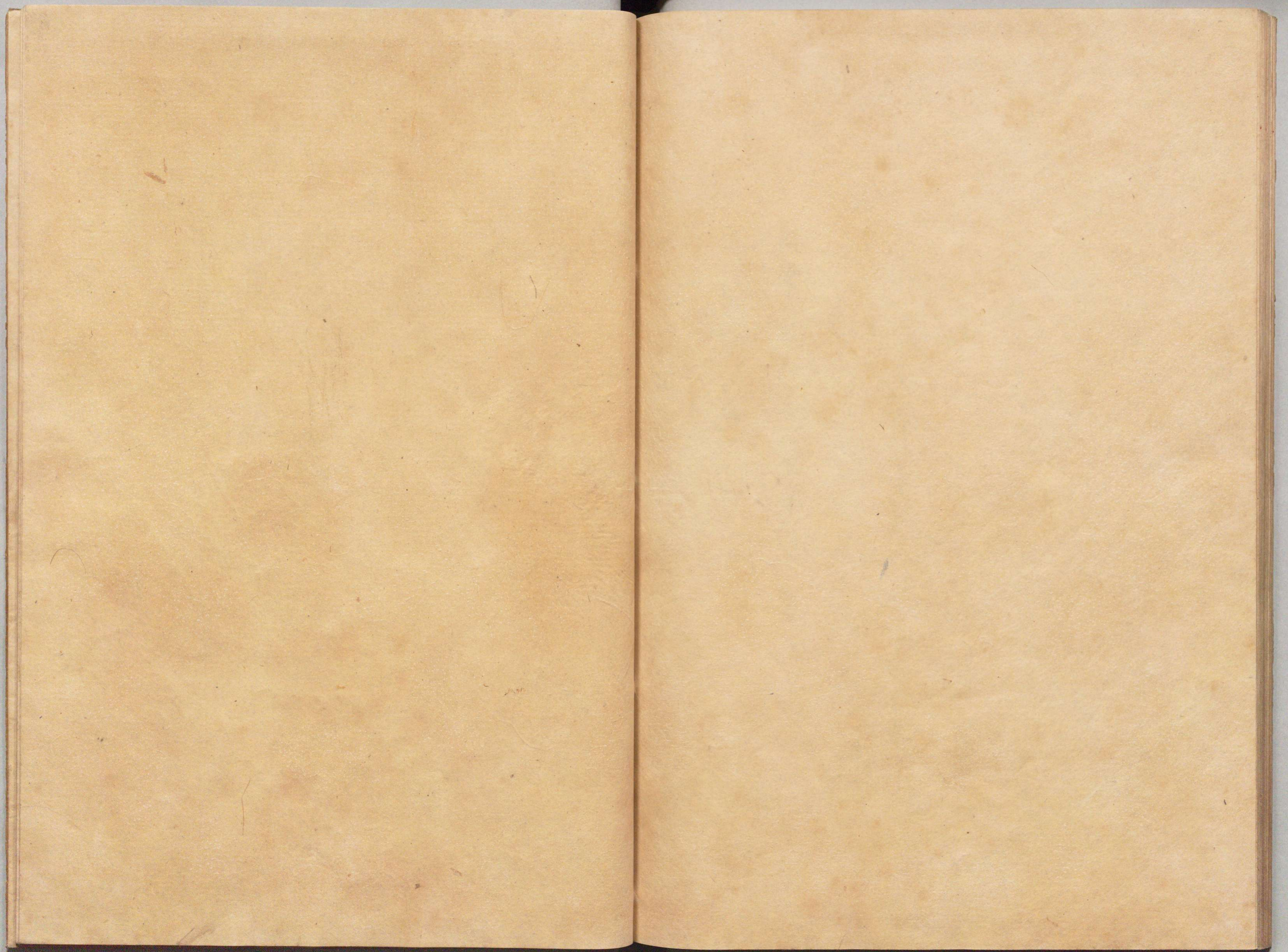
地とたまうり御殿守ごでんしゅの御者ごしやとつこじ

まじやまのりんすのらにりの

正行幕紋九内可字

まじやま

昌繁幕紋一葉葵内六星まじやまのあひのちらにむつり



多田 ただ

● 某 たれ

慶忠 けいちゆう

生國攝列 しやうこくしやうりよく

大権現 おほいけんげん へつる奉 たてまつる

虫改 むしをかへ

三吉 所存の

生國之列 しやうこくしやうりよく

大権現と降し奉るおほせふより初
三者のらに西右衛門のこゝなまゝと
以付さるる年四十二歳より死

正信

西右衛門

生國茂列

大権現

台徳院殿

將軍家とありしとあり

正与

三吉 生國同前

將軍家へ此久たたくもつ

家紋獅子小牡丹
派紋まん字とあり

